

令和5年度相談支援従事者指導者養成研修会

基礎的環境整備と合理的配慮

日時: 2023年6月7日(水)

熊谷 晋一郎

東京大学先端科学技術研究センター
東京大学バリアフリー支援室

本日の内容

1. なぜ配慮が必要か

- 差別解消法
- 当事者参加による質の向上

2. 配慮の具体例

3. アクティブラーニングにおける配慮

本日の内容

1. なぜ配慮が必要か

- 差別解消法
- 当事者参加による質の向上

2. 配慮の具体例

3. アクティブラーニングにおける配慮

1 - 1 バリアフリー（障壁除去）の二つの方法

差別解消法は、当事者の意向の尊重や、当事者との対話を重視して、当事者の直面するバリアの除去を大学に求める。

バリアを積極的に除去する方法は、大別すると2つある。

- ・合理的配慮：**個別的・事後的**
- ・基礎的環境整備(事前的改善措置)：**集团的・事前的**

1 - 2 合理的配慮の決定プロセス

合理的配慮とは、大学が、ある特定の障害学生**個人**の直面するバリアの存在を認識した**後に**、その学生との建設的対話を通して、そのバリアを除去することをいう（個別的・事後的性格）。

大学と学生の間には、情報の非共有性があることが多い。そのため、基本的に、学生がバリアの除去を求める意思の表明をした後に、大学はバリアの存在を認識できる。また、バリアの除去の具体的方法を特定するためには、両者の建設的対話が必要となる。

大学は、いったん合理的配慮を提供した後も、配慮内容の見直しが必要な場合があるので、いわゆるモニタリングと継続的な建設的対話が必要となる。

1 - 3 基礎的環境整備の決定プロセス

基礎的環境整備とは、大学等が、不特定多数の障害学生（**集団**）のために、特定の障害学生個人からの意思の表明を待たず、あらかじめ（**事前に**）バリアを除去しておくことをいう（**集団的・事前的性格**）。

基礎的環境整備には、情報面・物理面のバリアを除去する措置や、教職員の意識面・態度面のバリアを取り除くための研修、制度面のバリアを除去するための体制整備（相談支援体制の拡充、紛争解決手続の整備など）が含まれる。

基礎的環境整備は、特定の障害学生個人との対話を通してなされるものではないが、様々な障害学生や障害者団体との対話やそのインプットなどを通してなされるべきである。

1 - 4 合理的配慮と基礎的環境整備の関係

合理的配慮と基礎的環境整備は、無関係ではない。たとえば、

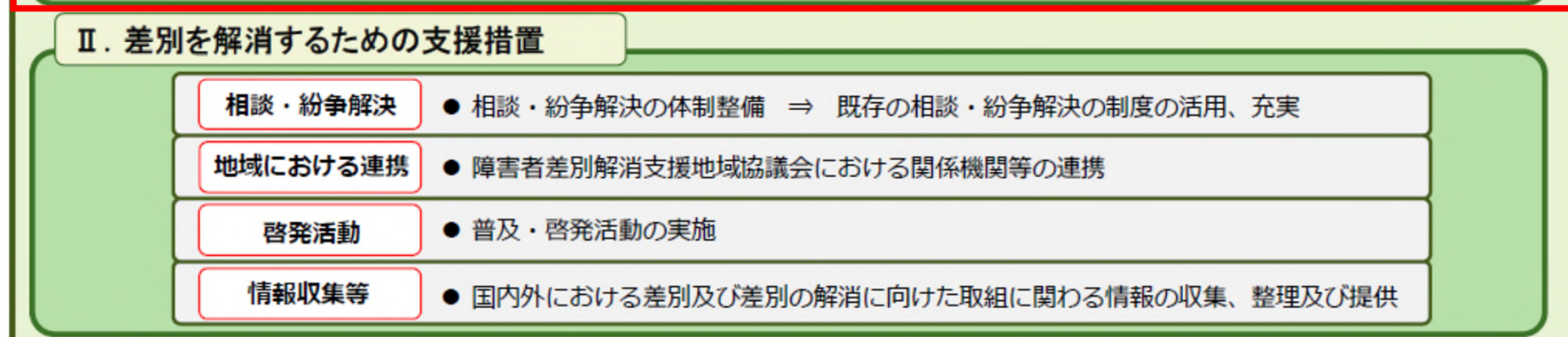
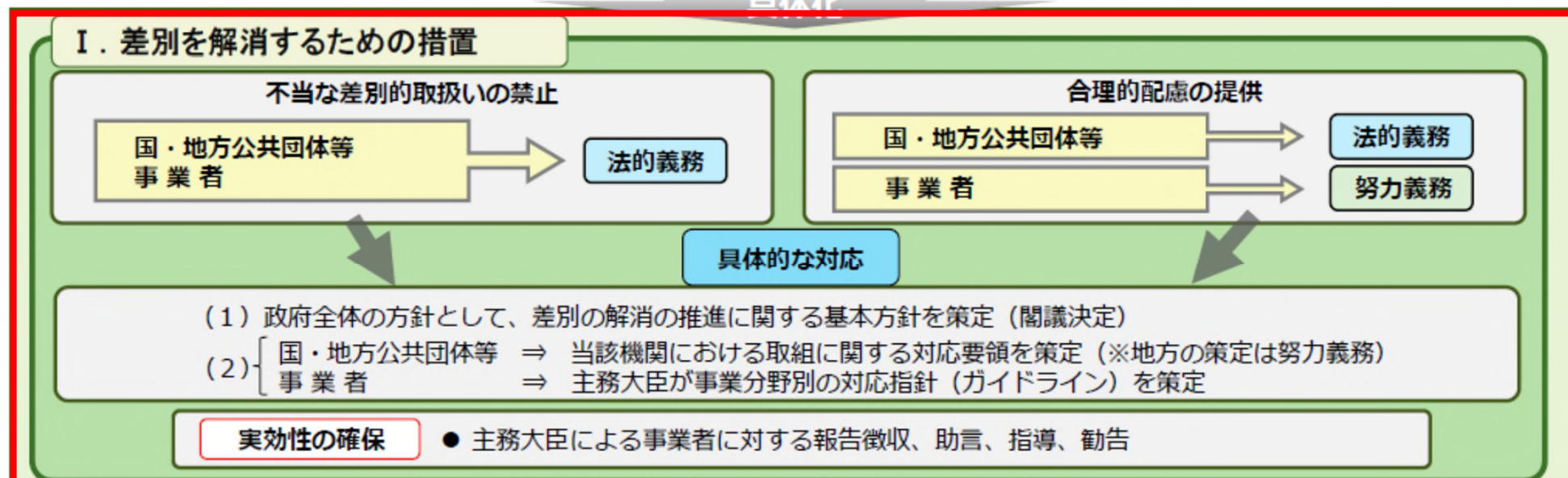
ある障害者のために提供された合理的配慮（例、スロープの設置など）が、実のところ、不特定多数の障害者のための基礎的環境整備になっていることがある。

また、基礎的環境整備（例、スロープの設置など）をしておくことにより、その後、特定の場合において、合理的配慮が不要になったり、提供されやすくなったりすることがある。

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法〈平成25年法律第65号〉）の概要

<p>障害者基本法 第4条</p> <p>基本原則 差別の禁止</p>	<p>第1項：障害を理由とする差別等の権利侵害行為の禁止</p> <p>何人も、障害者に対して、障害を理由として、差別することその他の権利利益を侵害する行為をしてはならない。</p>	<p>第2項：社会的障壁の除去を怠ることによる権利侵害の防止</p> <p>社会的障壁の除去は、それを必要としている障害者が現に存し、かつ、その実施に伴う負担が過重でないときは、それを怠ることによつて前項の規定に違反することとならないよう、その実施について必要かつ合理的な配慮がされなければならない。</p>	<p>第3項：国による啓発・知識の普及を図るための取組</p> <p>国は、第一項の規定に違反する行為の防止に関する啓発及び知識の普及を図るため、当該行為の防止を図るために必要となる情報の収集、整理及び提供を行うものとする。</p>
---	---	--	--

具体化



合理的配慮の基本的な考え方

- **合理的配慮**とは、障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。
- 教職員は、教育・研究その他、**本学が行う事務又は事業**において、障害者から配慮を必要としている旨の**意思の表明**があった場合、合理的配慮を提供しなければならない。
- 教職員は、合理的配慮が障害者と教職員との**相互理解**の中で提供されるべき性質のものであることを理解しなければならない。

意思の表明がなくても、合理的配慮を必要としていることが明白である場合には、当該障害者に合理的配慮の提案をするための取り組みに努める。

合理的配慮の具体的な考え方

(1) 特定の場合において必要とされること：個別の事情に応じた**必要性**

特定の障害及び特定の状況（教育・研究その他本学が行う事務又は事業）により、支障が生じており、特定の配慮により支障の改善が想定されること。

(2) 適当であること：公正な機会均等のための**適当性**

配慮に当たって、教育・研究その他本学が行う事務又は事業の本質を変更しないこと。

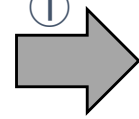
(3) 過度の負担を課さないこと：**非過重な範囲**

配慮に当たって、物理的・技術的負担、人的・体制上の負担及び費用負担の程度が、本学の事務又は事業の規模及び財政・財務状況を踏まえて妥当であること。

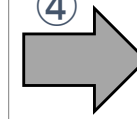
- 教職員は、配慮が合理的ではないと判断したときは、障害者にその理由を説明し、
代替手段を提示しながら、理解を得るよう努めることが望ましい。

A

教育・研究その他
本学が行う
事務又は事業



不当な差別的取扱いの禁止
(1) 正当な理由
(2) 平等を促進するために必要な措置



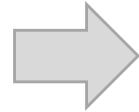
差別の解消



積極的改善措置

異なる取扱い

本人の
意思表示



合理的配慮の提供
(1) 必要性
(2) 相当性
(3) 非過重の範囲

インタラクティブ・プロセス（相互理解）

- 1) 論理的理解；正確な情報交換
- 2) 情動的理解；本人の要望、本学の事情

B

ユニバーサルデザイン（環境の整備）

事前的改善措置；意思表示・合理的配慮を必要としない差別の解消

本日の内容

1. なぜ配慮が必要か

- 差別解消法
- 当事者参加による質の向上

2. 配慮の具体例

3. アクティブラーニングにおける配慮

医師-患者コンコーダンス効果

(physician-patient concordance effect)

- 患者の経験と類似した人生経験を持つ医療者が担当したときに、医療に対する患者の満足度が高くなる傾向のこと。
- 先行研究では、ジェンダー、エスニシティ、LGBTの面でマイノリティとしての経験を持つ医療者について、医師-患者コンコーダンス効果が報告されている(Traylor et al 2010)。
- 障害のある医療者についても、同様の効果が期待されているものの(lezzoni 2016; Ouellette 2012)、他のマイノリティ領域と比較してその効果を検証した研究は乏しい。

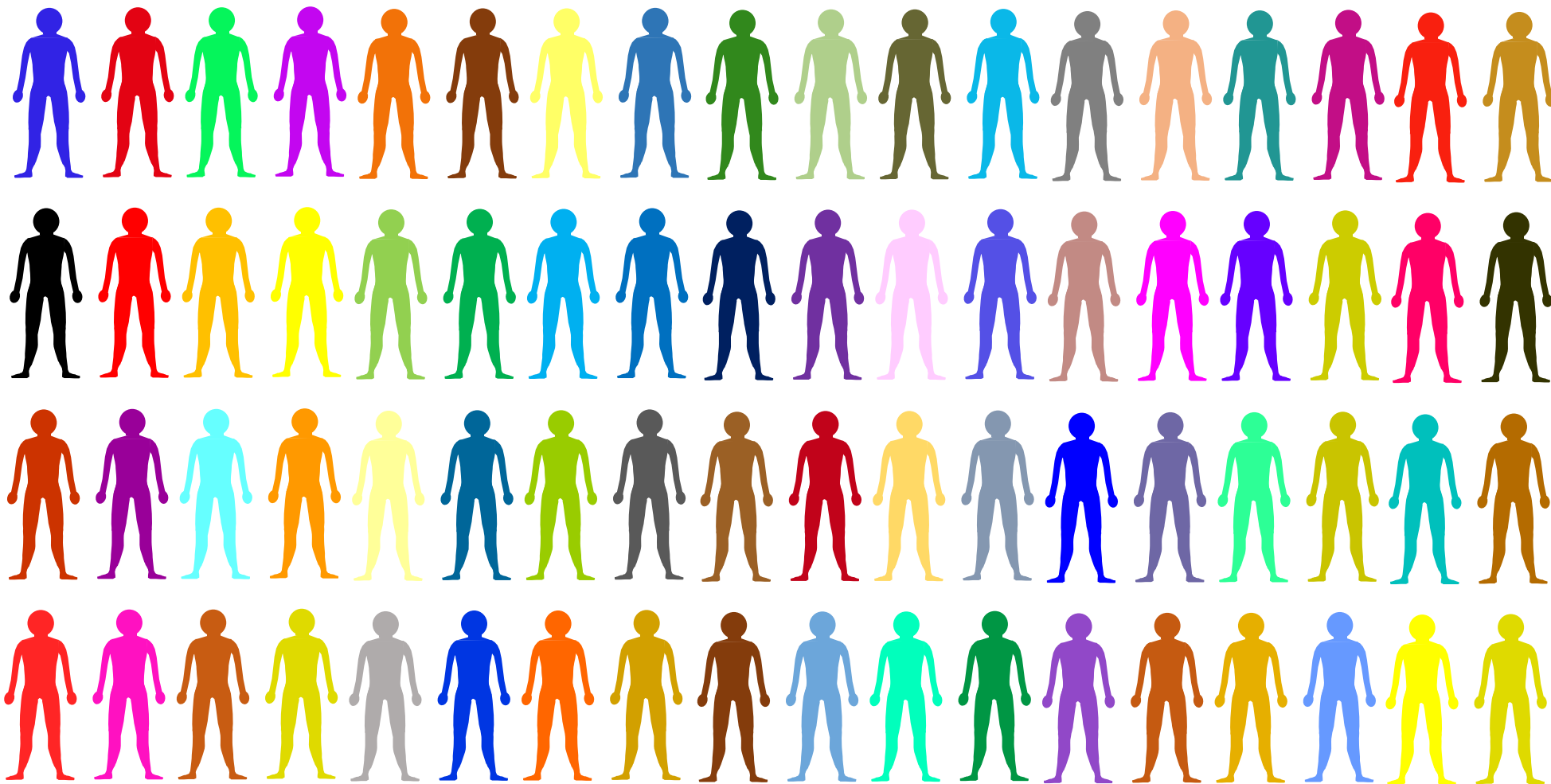
ニーズ主導の知識・技術・サービス生産

同僚に与える影響

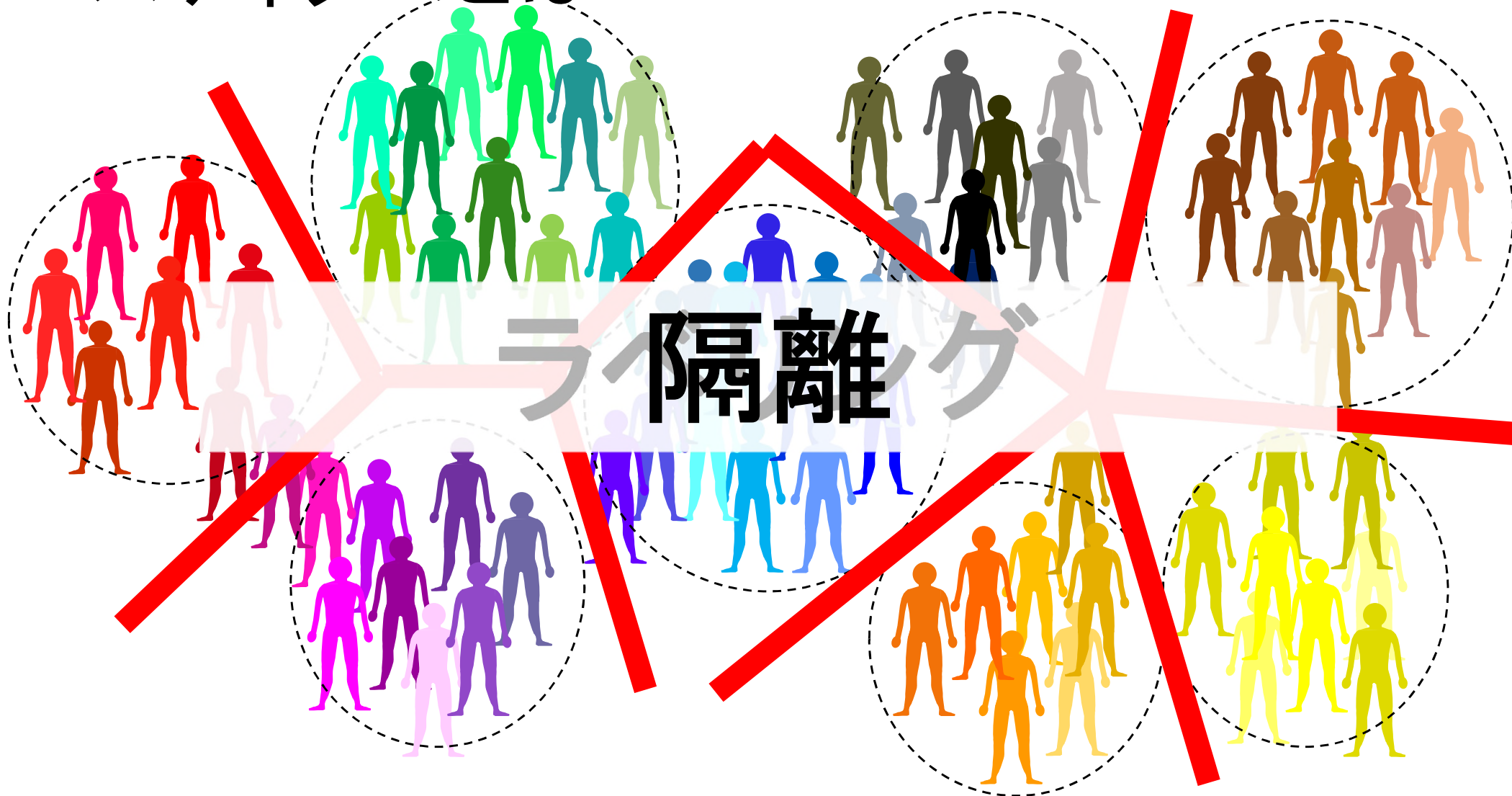
- 障害に関する医師の認識は、思い込みや固定観念に基づいていることがあり、障害者の生活、嗜好、価値観、期待に関する医師の態度に影響を与える可能性がある。このような考え方は、患者ケアに悪影響を及ぼす可能性がある(Lezzoni 2016).
- このような固定観念に対抗するための最も効果的な方法は、障害を持つ医師と一緒にトレーニングを行うことである。
- 医師教育者のクリスティ・キルシュナー医師 (Kristi Kirschner, MD) は、このような障害者との対等な地位の関係を通じて、規範的な文化や態度が積極的に変容させられ、挑戦されることを示唆している。

→ スティグマを減らす

スティグマとは

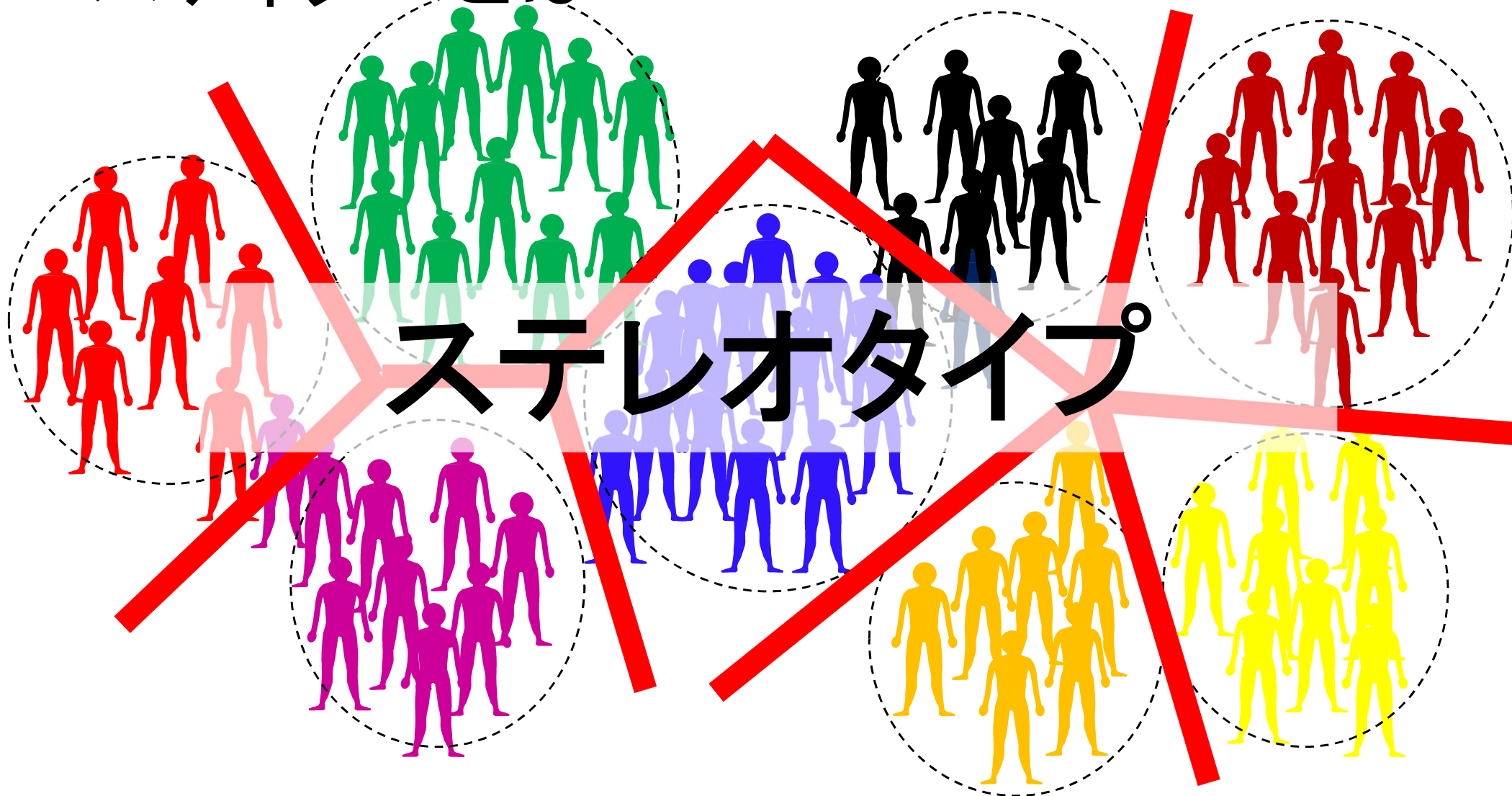


スティグマとは



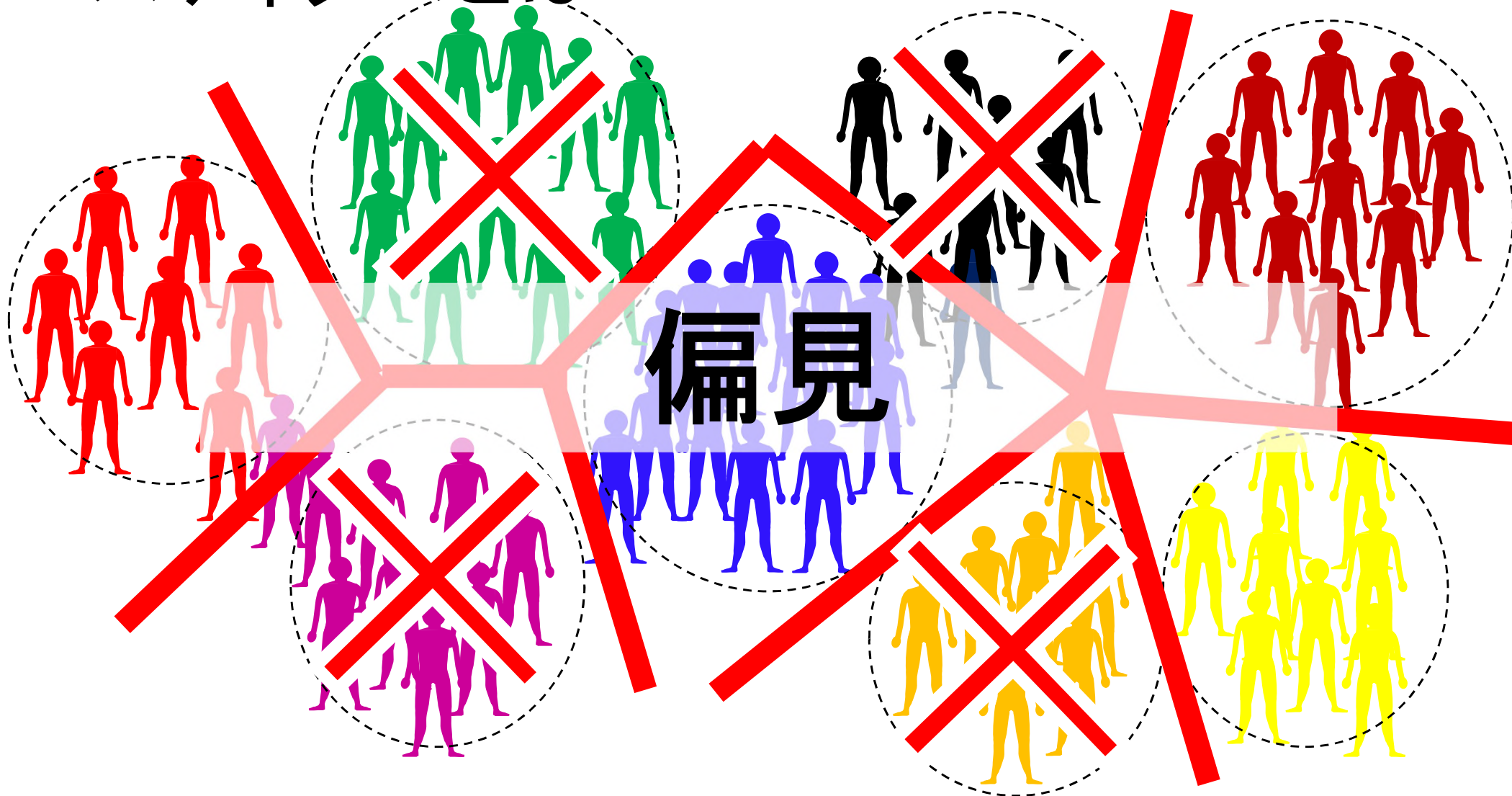
スティグマ

スティグマとは



ステレオタイプ

スティグマとは



偏見

スティグマとは



差別

(同化や排除を強いる言動)

スティグマとは

権力の下で、ラベリング・ステレオタイプ・分離・社会的ステータスの喪失・差別が共起する現象
(Link & Phelan, 2001)

1. 公的スティグマ
2. 自己スティグマ
3. 構造的スティグマ



※帰属理論：本人の努力や心がけで変えることができると誤って信じられている属性は、スティグマを負いやすい(自己責任論とスティグマの深い関連)

例：依存症、生活習慣病、肥満、生活保護、見えにくい障害...

Weiner, B., Perry, R.P., and Magnusson, J. (1988). An attributional analysis of reactions to stigmas. *Journal of personality and social psychology*, 55, 738-748.

ソリューション2:文化

スティグマが雇用や健康に与える影響

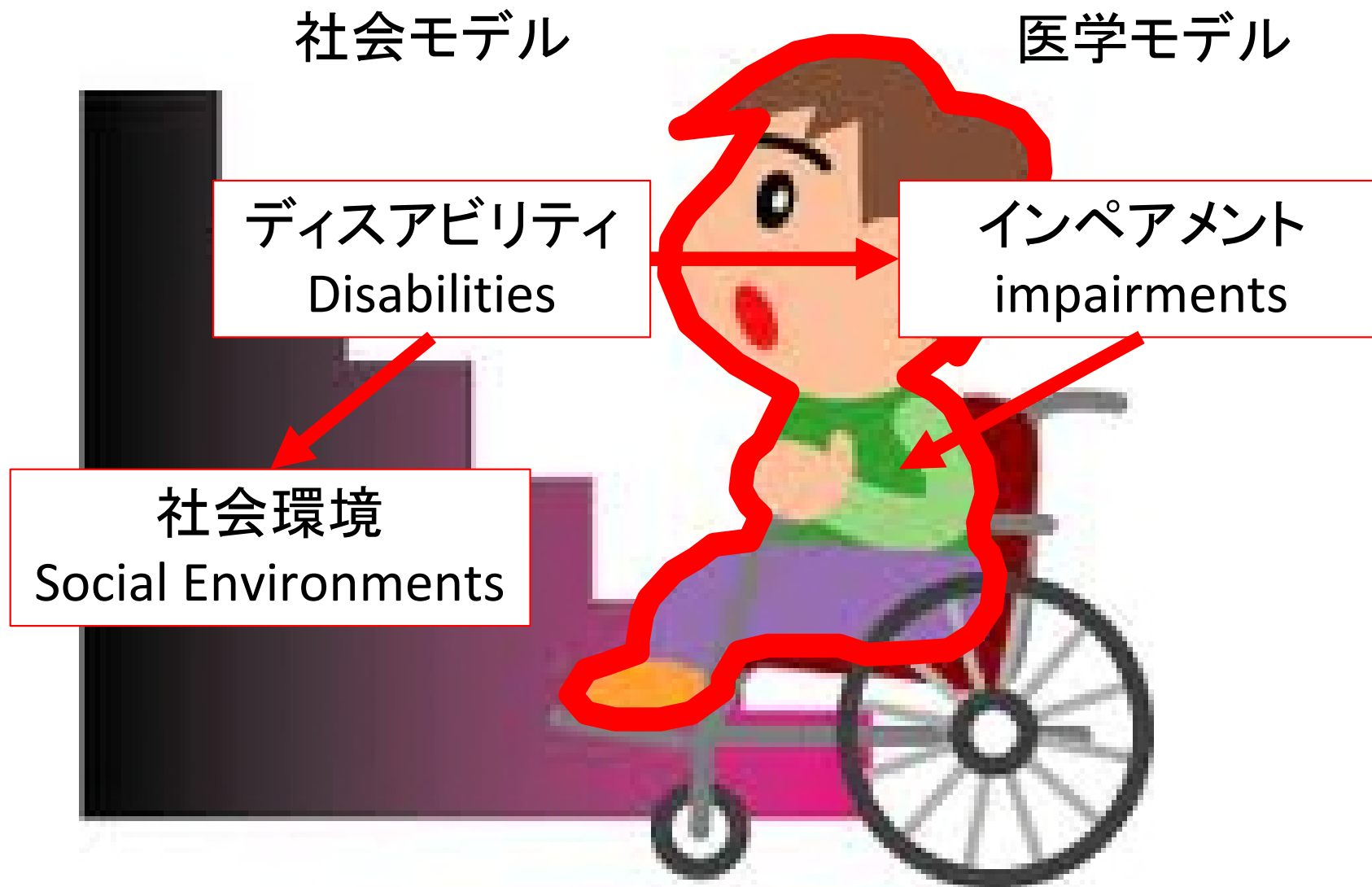
スティグマの影響を扱った総説論文

スティグマ化された属性	総人口に占める属性の割合	住まい	雇用	教育	社会関係	精神的健康	医療	身体的健康
精神疾患	2.4 (current) ¹³ ; 46.4 (lifetime) ¹⁴	Link and Phelan, ⁹ Hinshaw and Cicchetti ¹¹	Link et al., ¹⁶ Corrigan and Penn, ¹⁷ Link and Phelan ¹⁸	Link et al. ¹⁶	Hinshaw and Cicchetti, ¹⁵ Link and Phelan ¹⁸	Pachankis, ¹⁹ Livingston and Boyd, ²⁰ Hinshaw and Stier, ²¹ Rüscher et al. ²²	Hinshaw and Cicchetti, ¹⁵ Corrigan et al., ²³ and Goldner ²⁴	Link and Phelan, ¹⁵ Mak et al. ²⁵
非異性愛	3.5 ²⁶	Coker et al. ²⁷	Badgett ²⁸		Hatzenbuehler, ²⁹ Meyer, ³⁰ Friedman et al. ³¹	Pachankis, ¹⁹ Hatzenbuehler, ²⁹	Coker et al. ²⁷ Cochran ³²	Meyer, ³⁰ Cochran ³²
肥満	33.8 ³³		Puhl and Brownell ³⁴	Puhl and Brownell, ³⁴ Puhl and Latner, ³⁵ Puhl and Heuer ³⁶	Puhl and Latner, ³⁵ Puhl and Heuer, ³⁶ Pettit ³⁷	Puhl and Brownell ³⁸	Puhl and Brownell, ³⁵ Puhl and Heuer ³⁶	Puhl and Latner, ³⁵ Puhl and Heuer ³⁶
HIV/AIDS	0.003 ³⁹	Leaver et al. ⁴⁰	Herek ⁴¹	Herek ⁴¹	Herek, ⁴¹ Crawford ⁴²	Pachankis, ¹⁹ Herek ⁴¹	Mawar et al. ⁴³ Mahajan et al. ⁴⁴	Rabkin, ⁴⁵ Logie and Gadalla, ⁴⁶
障害	11.8 ⁴⁷		Smeets et al. ⁴⁸	Smeets et al. ⁴⁸	Jacoby et al., ⁴⁹ de Boer et al. ⁵⁰	Smeets et al., ⁴⁸ Beart et al., ⁵¹ Livneh et al. ⁵²	MacLeod and Austin ⁵³	Jacoby et al. ⁴⁹
エスニックマイノリティ	Hispanic, 16.3; non-White, 27.6 ⁵⁴	Massey and Denton, ⁵⁵ Williams and Collins ⁵⁶	Williams ⁵⁷	Steele, ⁵⁸ Zirkel ⁵⁹	Williams and Collins ⁵⁶	Smart Richman and Leary ⁶⁰	Williams ⁵⁷	Paradies, ⁶¹ Williams et al., ⁶² Clark et al. ⁶³

Note. We included review articles that discussed more than 1 article in each domain.
^aBeing denied housing as a result of discrimination or being overrepresented among the homeless population because of stigma.
^bSelf-esteem, emotion regulation processes, and coping responses to stigma-related stressors.
^cAttitudes of health care providers, suboptimal treatment, or reduced likelihood of accessing prevention and intervention services.

Hatzenbuehler, M.L., Phelan, J.C., and Link, B.G. (2013). Stigma as a fundamental cause of population health inequalities. *American Journal of Public Health*, 103, 813–821.

どこに「しょうがい」は宿るか？



WHO ‘Disability & Health’ 障害者の健康格差が生じる4つの理由

1. 経済コストの高さ

保健サービスと交通にかかる費用の高さは、障害者が低所得国で必要な医療を受けられない2つの理由

障害を持たない人々の32～33%、障害を持つ人々の51～53%が必要な医療費を支払うことができない。

2. サービスの利用可能性の制限

そもそも障害者のための適切なサービスが欠如していることは、医療アクセスの重大な障壁。

インドのウッタル・プラデシュ州とタミル・ナードゥ州の研究では、経済コストの問題の次に、その地域におけるサービスの不足が医療施設を使用する上で大きな障壁であることが分かった。

3. 物理的障壁

建物(病院、保健センター)、アクセス不能な医療機器、表示の不備、出入口の狭さ、内部の段差、不十分なトイレ、アクセス不能な駐車場は、医療施設の障壁を生み出す。

運動困難な女性は、起立を前提としたマンモグラフィー装置にアクセスできず、乳癌および子宮頸癌のスクリーニングを受けることができないことが多い。

4. 保健医療従事者の不十分なスキルと知識

障害を持つ人々は、医療提供者のスキルが不十分だと感じる頻度が2倍以上であり、不適切な扱いを受けたと感じる頻度が4倍、治療を拒否されたと感じる頻度が3倍である。

本日の内容

1. なぜ配慮が必要か

- 差別解消法
- 当事者参加による質の向上

2. 配慮の具体例

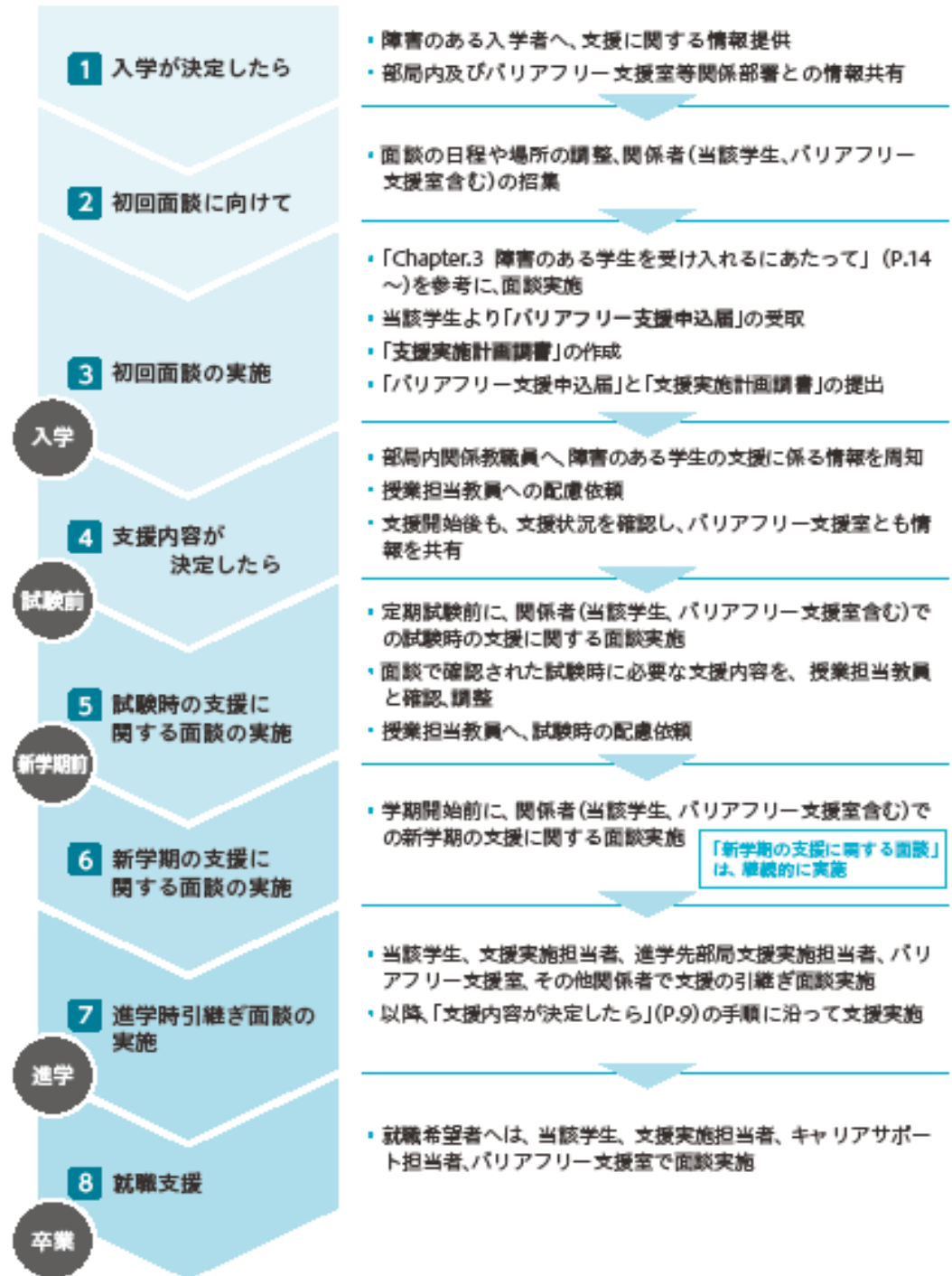
3. アクティブラーニングにおける配慮

障害のある学生への支援

図：障害のある学生の支援の流れ
支援実施担当者の役割

- バリアフリー支援室は、ノウハウの提供等を行う。
- 支援実施担当者は、支援全般の調整の担い手になる。

障害のある学生へのバリアフリー支援ガイド(2013)



緊急災害時における障害のある学生・教職員への対応

① 個別の避難体制の確立

- ・「個別の緊急災害時避難マニュアル」の作成
必要に応じ、個別の避難の流れをマニュアル化する。
- ・車いす等の構成員における移動手段の確立：避難補助具の選定



- ・情報伝達手段の確保：聴覚障害のある職員への情報確保の工夫



聴覚障害職員が携帯
する筆記具とカード



聴覚障害職員とともに働く
職員のための手話カード



避難場所に掲げる「手話」
プラカード



緊急災害時用
バンダナ(聴覚障害版)

② 防災訓練の実施依頼（通知）

バリアフリー支援室長から各部局長へ、「防災訓練の際は、障害のある学生・教職員の避難も考慮して実施すること」との旨通知する。

③ 防災訓練での訓練実施



知的障害のある構成員チームの避難訓練の様子
地震発生時～避難までの一連の流れを把握する



車いす学生の避難場所集合時の様子
主に、避難場所までのアクセス等を確認する



避難補助具選定のための検証

④ 緊急避難機器 定期取扱い講習会の実施



緊急避難機器
定期取扱い講習会



車いす教職員の避難訓練

【共通の支援】

- 支援に関する相談
- 授業担当教員との連絡・調整
- 定期試験時に配慮すべき事項の調整
- 支援機器に関する情報提供、支援機器の貸与
- 学内施設の改善
- 教室での座席位置の確保
- 学生宿舎のバリアフリー化への対応

【視覚障害のある学生への支援】

- 書籍・資料の各種加工
- 対面朗読
- 代筆・代読
- 文献や資料の検索、整理等の補助
- 掲示文書等文字情報の入手

【聴覚障害のある学生への支援】

- パソコンテイク
- ノートテイク
- ノート作成
- 手話通訳
- 字幕挿入

【肢体不自由のある学生への支援】

- ノート作成
- 代筆
- 書籍、資料の電子データ化
- 教室アクセスの確保
- 専用駐車場の確保
- 控室の確保

【内部障害、慢性疾患のある学生への支援】

- 教室変更
- 専用駐車場の確保
- 緊急連絡先の共有

【発達障害・精神障害のある学生への支援】

- 評価の代替
- 提出期限延長
- 退室、再入室の許可
- 講義・実習の代替
- 視覚呈示を増やした教育環境
- 教示方法の調整
- ティーチングアシスタント又はサポートスタッフの配置
- 進捗管理の補助
- コミュニケーションの補助
- 耳栓等の使用許可
- 情報保障
- 身体機能の障害に準じた配慮
- 性別違和への配慮

東京大学バリアフリー支援室が所有している支援機器

〈共通〉

- ICレコーダー
- iPad、iPad mini
- モバイルプリンター

〈視覚障害〉

- 点字プリンター・点字ディスプレイ
- 点字タイプライター・小型点字器
- 点字テプラ
- 立体コピー作成機
- 音声対応ワープロソフト
- 音声対応メールソフト
- 画面読み上げソフト
- 音声拡大読書器
- 拡大読書器
- ルーペ
- スキャナー
- 高輝度懐中電灯
- 白杖
- シミュレーションレンズトリアール

〈聴覚障害〉

- 補聴援助システム
- 携帯型磁気ループシステム
- 音声認識アプリケーションソフト
- 音声認識ソフト
- 簡易筆談用具

〈肢体不自由等〉

- 昇降機
- スロープ
- 入力スイッチ
- トラックボールマウス
- 収納式フットレスト付きリクライニングチェア
- 手動車いす
- 高齢者疑似体験教材

〈緊急災害時避難器具〉

- 非常用階段避難車
- 非常用搬送具
- 固定器具

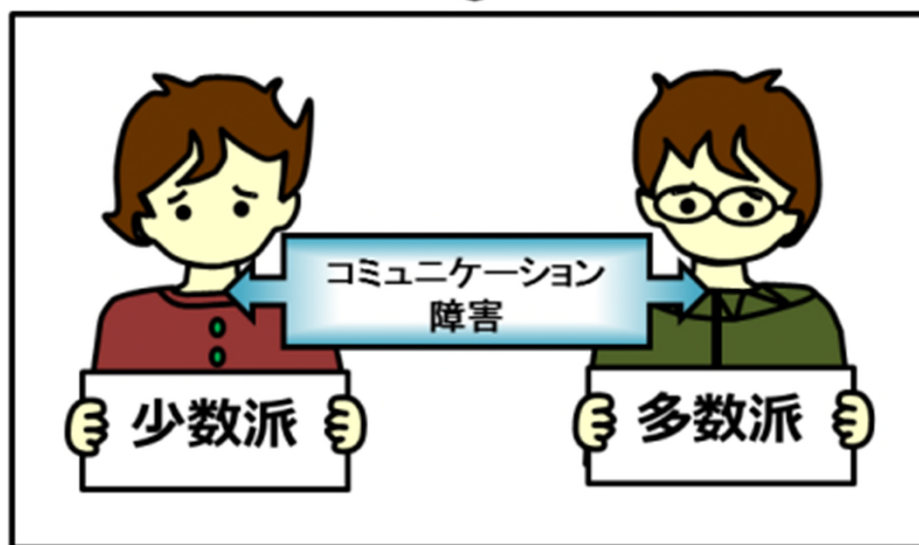
本日の内容

1. なぜ配慮が必要か

- 差別解消法
- 当事者参加による質の向上

2. 配慮の具体例

3. アクティブラーニングにおける配慮



「コミュ障がどうので辞めて
行った人が、別の会社でそれ
なりにやっていけてるらしいの
を聞いて、コミュニケーション
の責任は一方だけにあるので
はないというのを感じずに居ら
れない」

あるTwitterより

その他：教職員の関わりの工夫（例）発達障害のある学生に対して

「教職員向けメールマガジン：教員が学生指導に生かすために」(学生NW本部)

【学生本人の特性を理解する】

●意欲にムラがある

興味が無いとスイッチがオフになるが、オンになれば高い集中力と徹底性を発揮する。オンとオフの切り替えポイントがわかりにくい。

●興味や関心のポイントがユニーク

学問上、新しい視点を提供する可能性もあるが、重要でないポイントに力を入れ過ぎて作業が停滞したり、周囲と対立することもある。

●エンドポイントのイメージが持ちにくい

大学院生のテーマとしては壮大過ぎたり、例外的に優秀な学生をモデルにしようとして自滅してしまう。

●言外のメッセージや暗黙のルールが苦手

明文化されたルールはきちんと遵守し、悪意のある嘘偽りは無いが、ニュアンスや雰囲気の変化には無頓着である。

【教員の関わりの工夫（特性に合わせて）】

●やる気アップ

叱責よりも褒めること。出来ていることを見つけて評価する。本人が取り組んでいることに焦点を当ててタイミング良く具体的に褒める（そうでないと逆効果のことがある）。

●適切に優しくガイドする

教員と定期的にミーティングを行なう。予定の変更は早めに告知。重要ポイントは、何故それが大切で優先順位が高いのか、噛み砕いて説明する。説明ごとに中身がずれると混乱することがあるので注意。

●修了の到達点と到達までの道程を示す

研究の大枠を確認して、段階的なゴールの設定を示す。曖昧な「普通にやれば大丈夫」のような指導は混乱のもと。

●やり取りをスムーズにするために

伝える内容はシンプル&クリアにする。資料の視覚化（レジユメの活用）、口頭による指示よりもメールで明示的に説明する方が良いことも。

自閉スペクトラム症 (ASD) の診断基準 (DSM-5)

以下のA,B,C,Dのすべてを満たさなくてはならない:

- A) 様々な文脈を超えて、全般的な発達の遅れでは説明のつかない、**社会的コミュニケーションと社会的相互作用における持続的な欠損**がある
- B) 行動、興味、活動の限局的かつ反復的なパターン
- C) 症状は小児期早期からみとめられていなくてはならない(ただし、社会的な要求水準が限られた社会的能力を超えるまで、完全に症状が顕在化しないこともある)
- D) 症状によって日常的な生活機能が制限、障害される

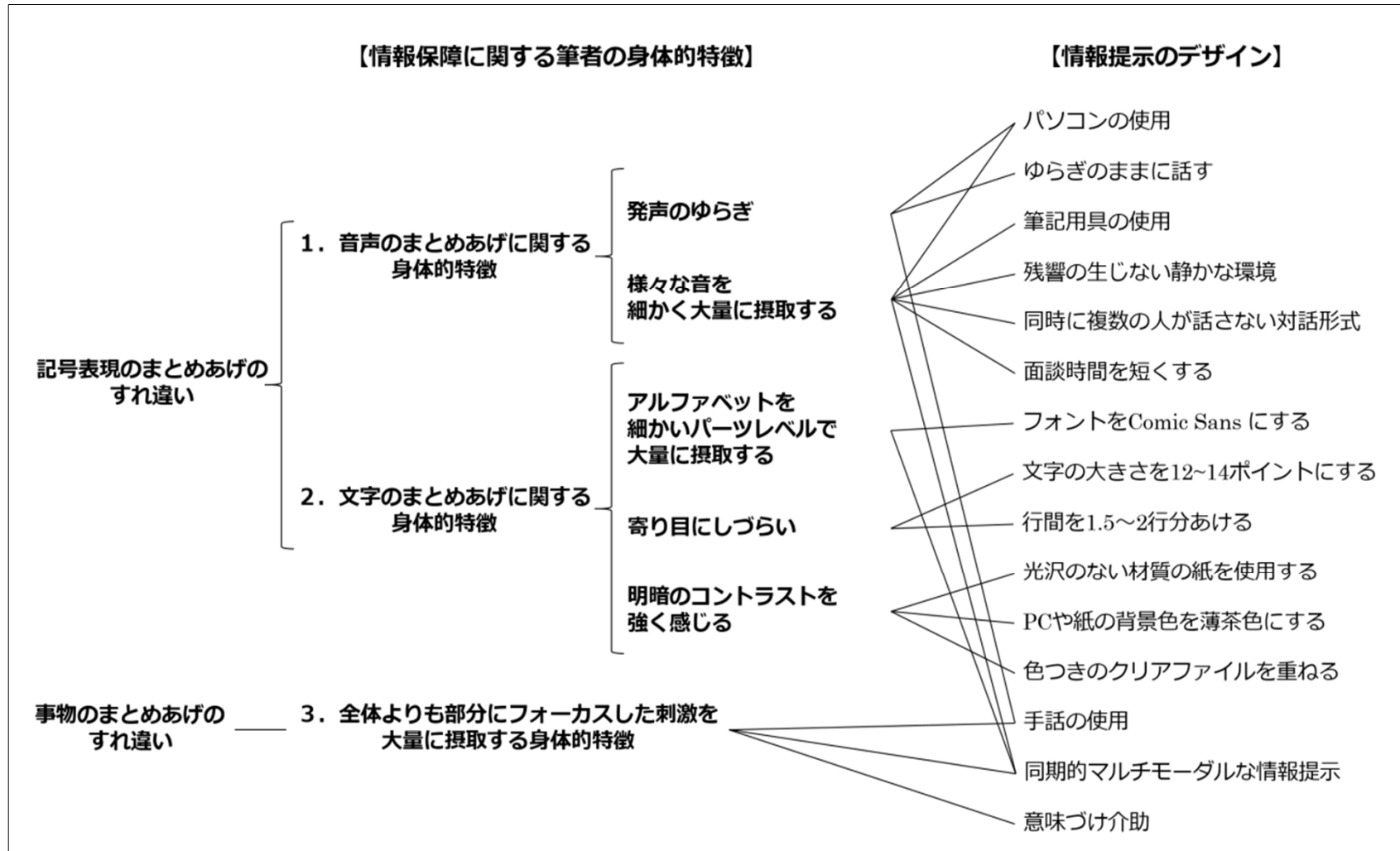
ASD向けのコミュニケーション・デザイン

Ochs and Solomon, 2010: Table 1 より改変して引用

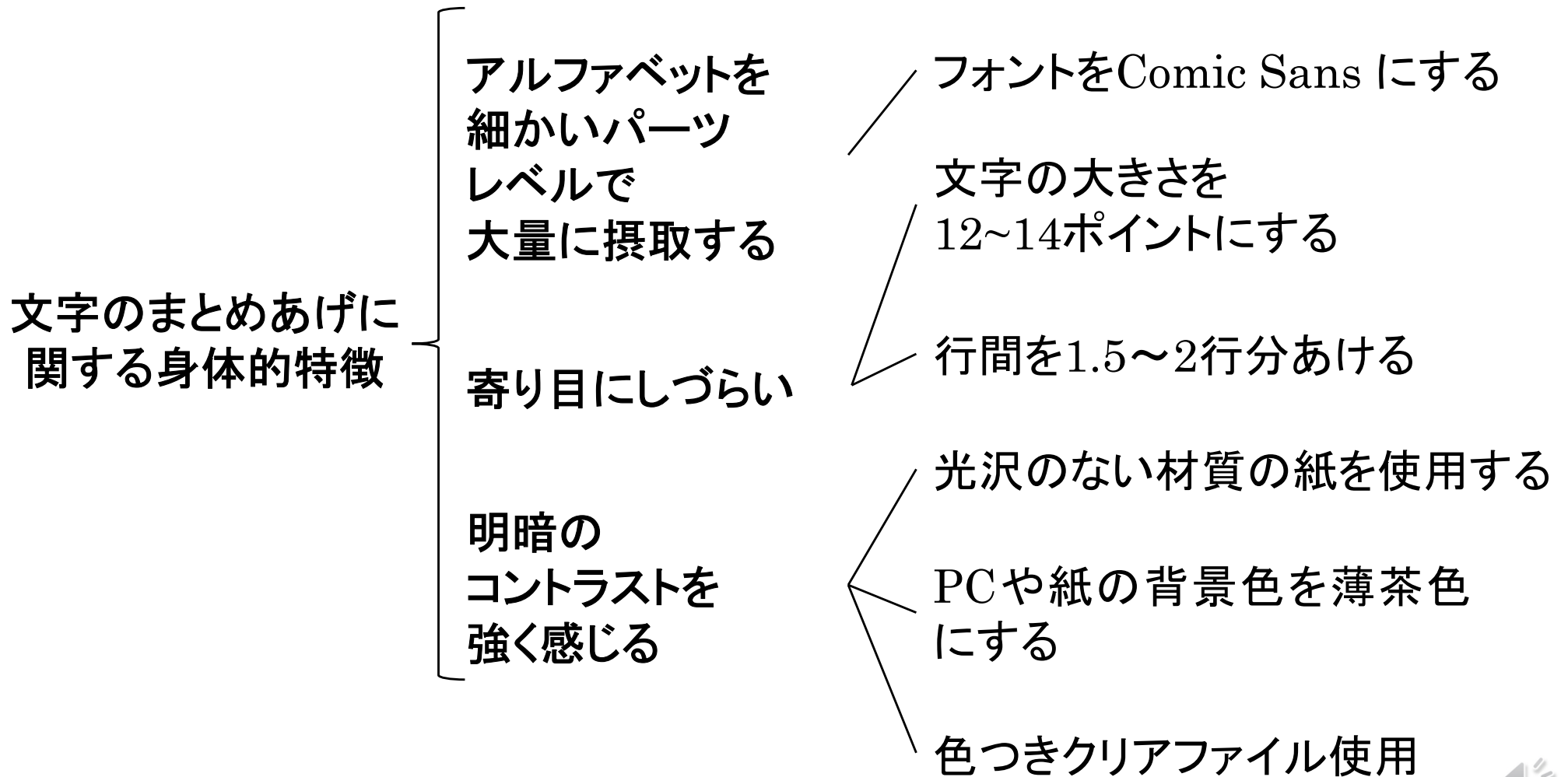
パラメータ	ASD向けの社会性デザイン
言語	第1言語(母語)をつかって、家族のメンバーと
会話連鎖	短い会話単位の連鎖
話題	客観的知識について
身体的相互作用	対面的でない相互作用
仲介物	相互作用を仲介するために人工物や動物を使う
コミュニケーション媒体	書き、指さし、音楽(特に重度の自閉症児の場合)
情動の強さ	感情表現を控えめに
テンポ	中くらいから速め



ASDフレンドリーな情報提示



身体的特徴とそれに対応する情報提示デザイン



ノオント 段階 スケジュール

2 | 4 | 6 | 8 | 10 | 12 | 14 | 16 | 18 | 20 | 22 | 24 | 26 | 28 | 30 | 32 | 34 | 36 | 38 | 40 | 42

Abstract: Until recently, cognitive research in infantile autism primarily focussed on the ability of autistic subjects to understand and predict the actions of others. Currently, researchers are also considering the capacity of autists to understand their own minds. In this article we discuss selected recent contributions to the theory of mind debate and the study of infantile autism, and provide an analysis of intersubjectivity and self-awareness that is informed both by empirical research and by work in the phenomenological

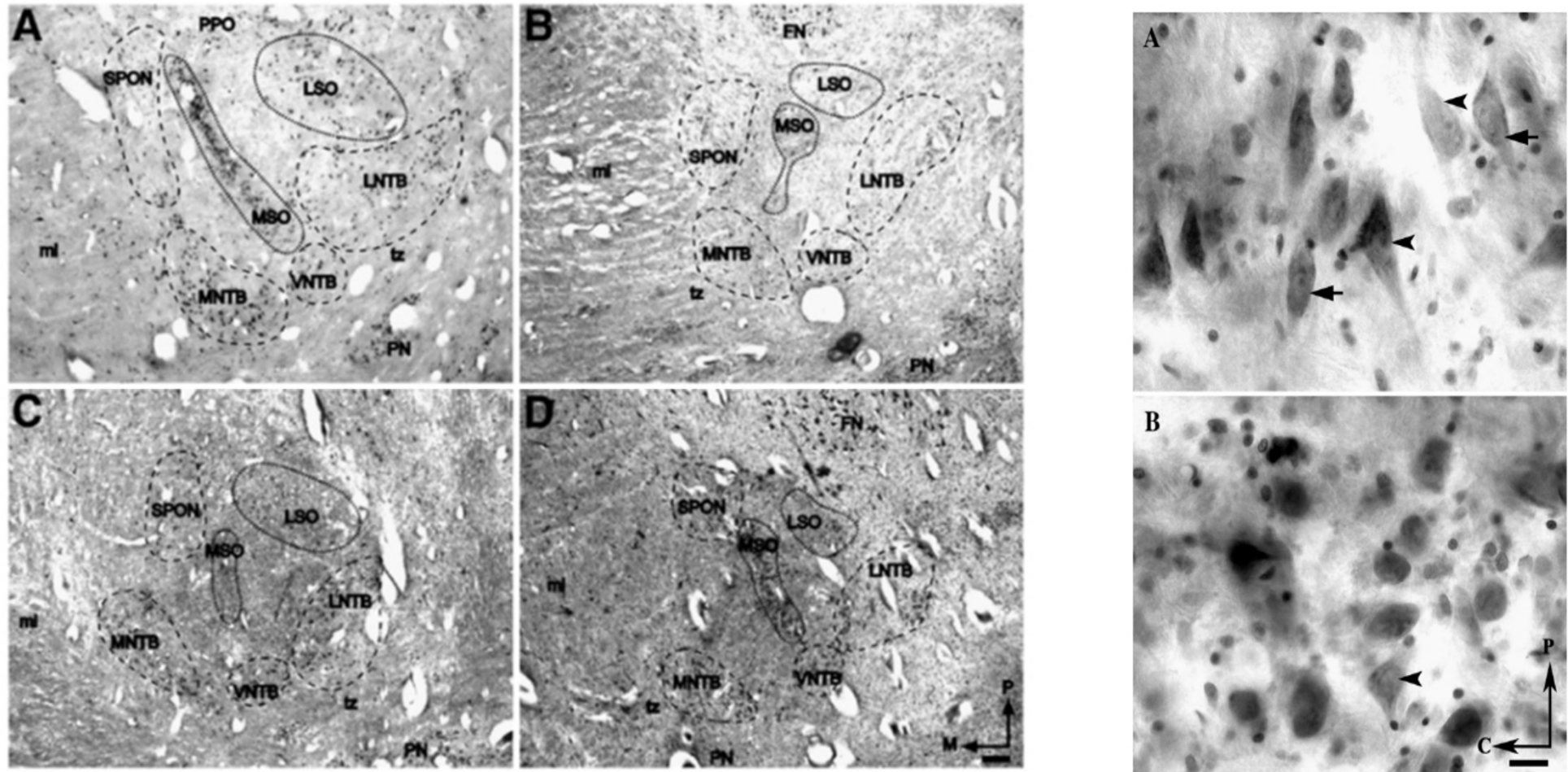
授業が聞き取れない



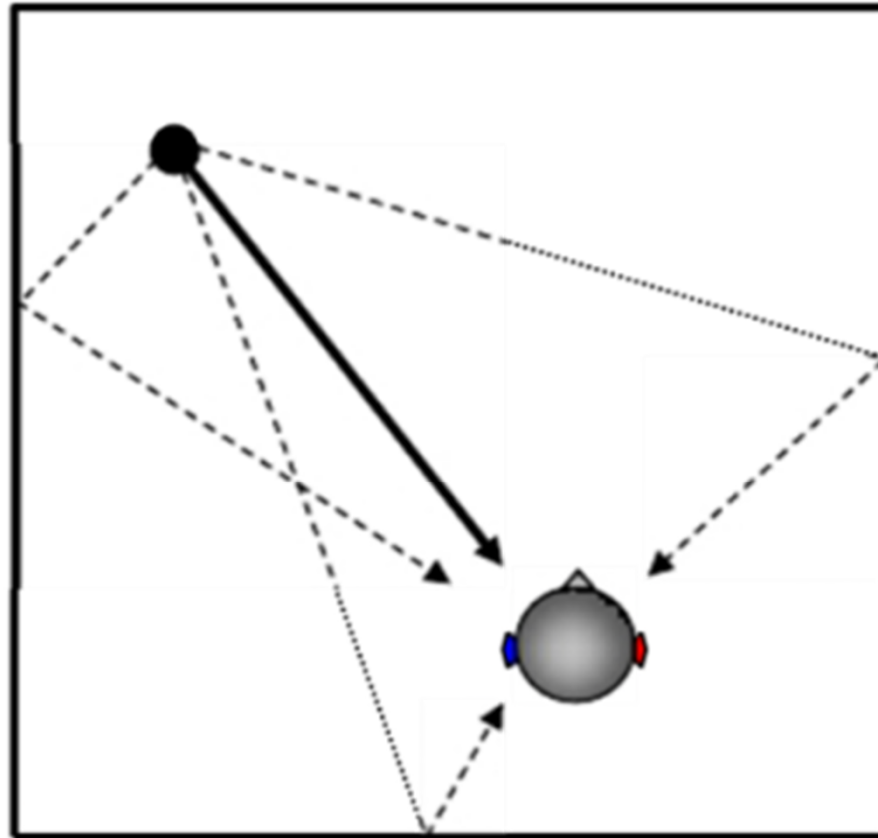
ほかの生徒による**物音**や、
部屋の広さによって生じる**反響音**など
言葉の意味判別に必要な音以外の音も
拾ってしまう。

Kulesza, R.J., & Mangunay, K. (2008). Morphological features of the medial superior olive in autism. *Brain Research*, 1200, 132–137.

ASDにおける内側上オリーブ核形態異常



残響

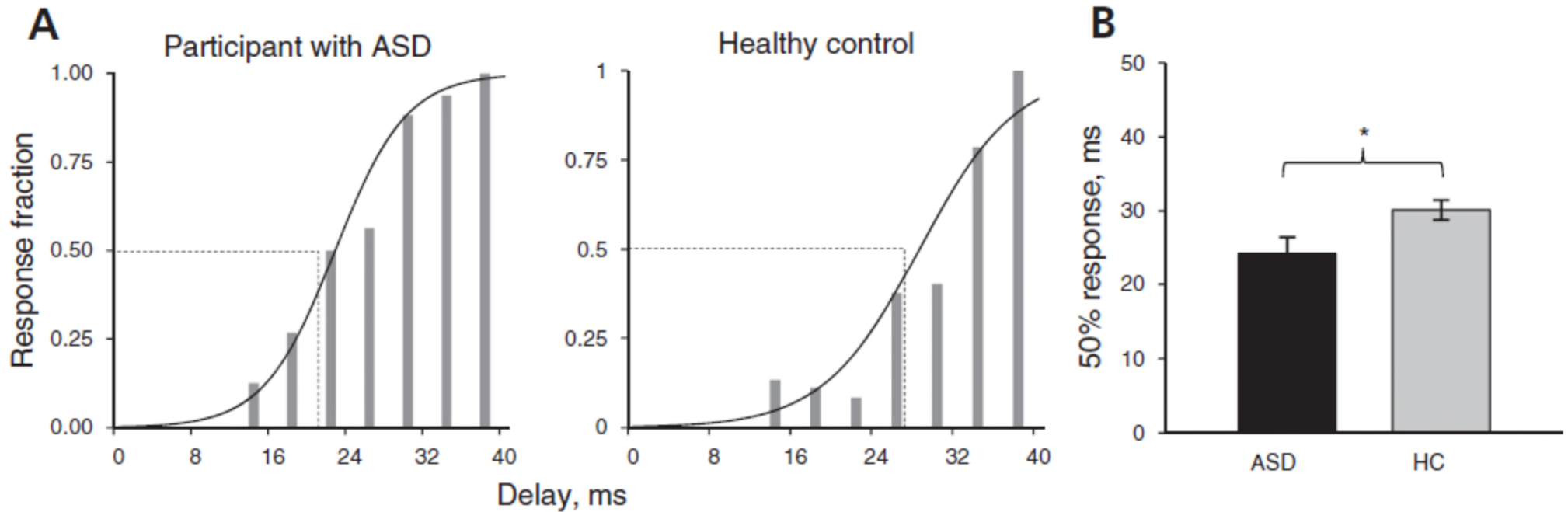


NTT

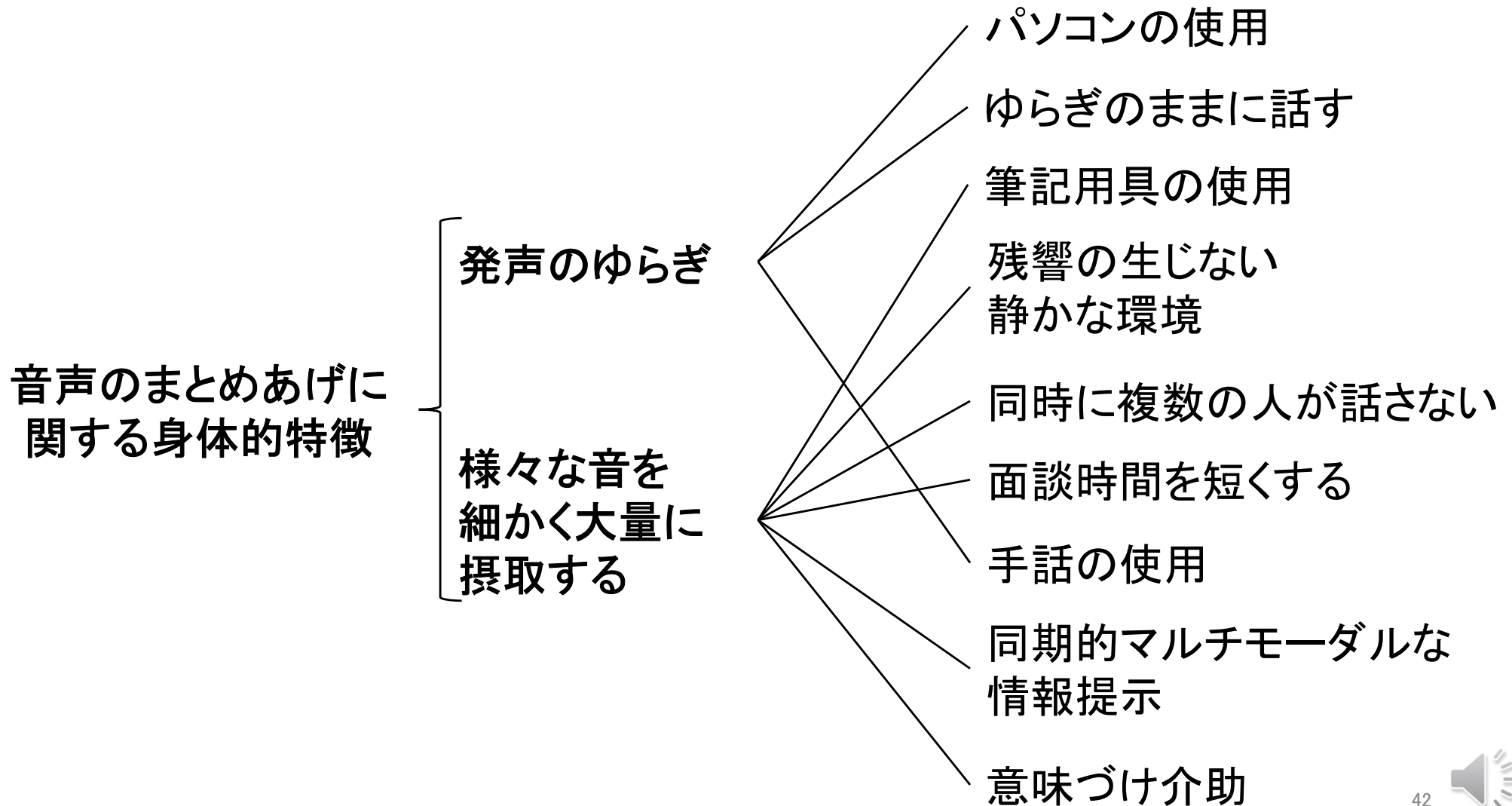
Copyright©2014 NTT corp. All Rights Reserved.



ASDでは先行音効果が起きにくい

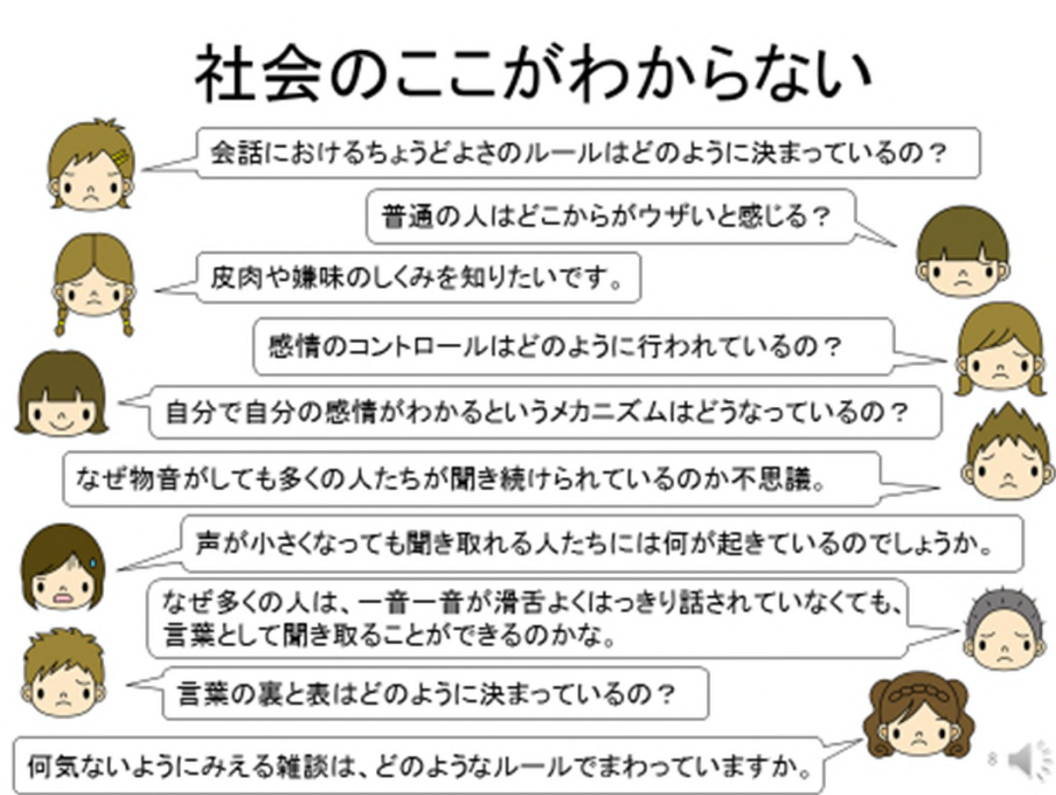


身体的特徴とそれに対応する情報提示デザイン



ソーシャルマジョリティ研究: 障壁となってる多数派社会を知る

社会のここがわからない



会話におけるちょうどよさのルールはどのように決まっているの？

普通の人はどこからがウザいと感じる？

皮肉や嫌味のしくみを知りたいです。

感情のコントロールはどのように行われているの？

自分で自分の感情がわかるというメカニズムはどうなっているの？

なぜ物音がしても多くの人たちが聞き続けられているのか不思議。

声が小さくなくても聞き取れる人たちには何が起きているのでしょうか。

なぜ多くの方は、一音一音が滑舌よくはっきり話されていなくても、言葉として聞き取ることができるのかな。

言葉の裏と表はどのように決まっているの？

何気ないように見える雑談は、どのようなルールでまわっていますか。



ソーシャル・マジョリティ研究

コ・プロダクション
コミュニケーション学の共同創造

綾屋紗月 [編著]
澤田唯人 藤野博 古川茂人 坊農真弓 浦野茂
浅田晃佑 荻上チキ 熊谷晋一郎
[著]

発達障害者の側から
ソーシャル・マジョリティ(社会的多数派)の
ルールやコミュニケーションを
研究してみました。

金子書房